

令和3年11月29日

## 11月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調。スギ中目材を中心に入荷中である。製材工場の引取が良くなり、土場の圧迫は改善されつつある。10月の市も完売。大田原、鹿沼の各共販所で秋季優良木材展示会の開催もあり、スギ、ヒノキは柱材・中目材とも強含み推移。スギ小径木は横ばい、ヒノキは平均単価で600円上昇。

群馬では原木入荷が少なく、特にスギ、ヒノキとも土台、母屋、桁用の4m、14~20cmが品薄。原木価格の上昇で先行きが不安。製材工場ではスギ、ヒノキとも柱、母屋、大引き、土台の引合が多いが、納期に間に合わない状況で、破風板等にも納期遅れが出ている。製品価格は高値安定であるが、一部で価格調整も見られ始めた。4mの90・105角は品薄で価格は依然強いが、間柱等は保合からやや緩和し始めた。

### 2. 米材

産地では伐採、出材とも順調だが、8~9月の伐採制限の出材減を補うには暫く時間がかかり、少なくとも年内一杯はタイトな状況が続くだろう。米国の港頭在庫は低水準ながら輸出需要に見合う供給は行われている。一方カナダの在庫は依然低水準が続いている。米マツ IS 級並の11月対日輸出価格(推定)は前月比横ばいの\$1,090になった模様。北米製材品市況はカナダ原木の高値張り付きにより製材品のコスト高が続いているが、需要の減退により価格は伸び悩んでいる。今後は生産調整等の対応で対日向け供給は不透明になると予想される。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(11/5)は\$585/Mで10月頭に比べ18.4%の上昇。

9月原木入荷は199千 $m^3$ でほぼ今年の月間平均入荷量となった。1~9月累計で1,794千 $m^3$ (前年同期比29.7%増)、カナダからの入荷は前年同期比284%増。出荷は213千 $m^3$ で出超、1~9月累計は1,774千 $m^3$ (同27.0%増)。在庫は163千 $m^3$ 、在庫率は0.79ヵ月と1ヵ月を切った状態が続いている。国内米材工場では角類の荷動きは依然好調だが、羽柄類が落ちてきた。東京木材埠頭の10月製品入荷は19千 $m^3$ (前月比21.0%減)、出荷は21千 $m^3$ (同0.9%増)、在庫は41千 $m^3$ (同37.2%増)。バルク船での製品入荷が引き続き好調で各社手持ち在庫が増え、一服感が出ている。コンテナ不足等の物流の混乱は

悪化の傾向にある。

### 3. 南洋材

サラワク州では本格的な雨期入りではないが、降雨量が多く原木生産は低調。FOB 価格は高値圏で張り付いたままの状態である。PNG でも原木生産は低調。主力の中国向けで揚地滞船が解消せず、配船数が減少している。ベトナム、韓国、日本からの引合は旺盛で、引合の強い樹種の FOB 価格は上昇中。海上運賃も依然上昇している。主製品のフリー板の市況は低迷。中国ではロシアからのアカマツ原料調達に苦戦しており、今後入荷減が予想される。11月予想の原木入荷は4千 $\text{m}^3$ 、出荷は3千 $\text{m}^3$ 、在庫6千 $\text{m}^3$ 。製材品入荷は32千 $\text{m}^3$ 。

### 4. 北洋材

産地の主力工場はアカマツ良材原木の不足で11月末からの冬伐り材入荷を待つ状況である。今年は暖かく、冬伐り原木の搬入に支障を来すとの情報もある。日本向けオファー、日本側からの引合も少なく落ち着いた状況が続いている。アカマツ原板は日本側の契約残が多く、高値警戒感から交渉は進んでいない。現地挽き野縁製品は価格調整に応じるシッパーも出て来ている、産地価格は中・低級品が一部値を下げているが、上級品は引き続き高値が続いている。アカマツ栈木の高値契約残が次々と入港しているが、荷動き悪く流通問屋は逆ザヤ必至である。国内製材工場ではDIY、一般向けとも一服感が出て来ている。9月の製品入荷(東京+川崎)は14千 $\text{m}^3$ 、出荷14千 $\text{m}^3$ 、在庫は25千 $\text{m}^3$ と入荷も増えないが、出荷も迫力がない。

### 5. 合板

合板用原木の国産材不足が更に深刻化しており、価格は全樹種で高値が続いている。特に東北で業界内での取り合いにより原木在庫が逼迫している。ロシア材は来年以降、原木輸出が可能か、今のところ不明である。ロシア単板は中国での滞船が影響し、船不足による入荷遅れが目立っている。

9月の国内合板生産量は27.6万 $\text{m}^3$ 、うち針葉樹合板は26.9万 $\text{m}^3$ 、出荷量は27.1万 $\text{m}^3$ で在庫量は9.0万 $\text{m}^3$ 、うち構造用合板の在庫は7.0万 $\text{m}^3$ とかなりの低水準。針葉樹合板は各メーカーともフル生産であるが、需要旺盛のため不足感が継続している。また働き方改革による労働時間の短縮と作業員不足で生産量は伸びていない。価格は過去最高値を更新。輸入合板は殆どの品目で価格が常に上がっており、落ち着く気配は今のところない。現地でのコスト上昇(接着剤・運賃)で値上がり傾向は続くものと予想される。9月の合板輸

入量は 23.6 万 m<sup>3</sup> で中国、ベトナム産は高水準 (LVL の急増)、マレーシア産は前月比増加、インドネシア産は微増。インドネシアでは依然原木供給が不足しており、価格は引き続き上昇。マレーシアでは新型コロナ禍による従業員不足により工場の生産量は頭打ち。一部工場では生産量を確保するため生産品目を集約する動きも見られる。日本からの安定した引合もあり、価格は強含みを維持。

## 6. 構造用集成材

10 月から第 3・四半期契約分のラミナが入港し始める予定であったが、10 月中旬より上海でのコンテナ船停滞で予定量を下回る入荷となった。コンテナ船停滞の年内解消は難しく、入荷は厳しくなる模様。第 4・四半期契約は €560 ~ €600/m<sup>3</sup> で過去最高値の第 3・四半期に比べ下がったものの依然として高値である。現在消費しているラミナは第 3・四半期分の €600 を超えるもので、原価は工場着で 100,000 円/m<sup>3</sup> 以上になる。また 9 月から入港し始めた第 3・四半期契約の輸入集成材 (€850 ~ €1,150/m<sup>3</sup>) は 10 月中旬までは比較的順調であったが、今月以降コンテナ不足の影響が出始めるだろう。国内流通価格は 150,000 円/m<sup>3</sup> 以上になる。

## 7. 木材チップ

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引合は強いが、発生、入荷ともに低調である。解体材は発生・入荷とも増加傾向にあるが、一部で出し渋り状況がある。製紙用チップは外材針葉樹から国産材にシフトしているが、国産材の増集荷は厳しい状況。燃料用は冬場に向かって使用量は増加傾向。原木在庫は少ないが、解体材は例年並み。国内チップ工場の在庫量は総じて少ない。

## 8. 市売問屋

大きい記念市を開催したが、様子見の材木店が多い。国産材構造材の入荷は少ないが、材木店の仕事量が少ないため不足感は見られない。外材構造材も問合せが少なくなった。羽柄材は国産材、外材とも不足材と荷余り材に分かれて来た。今後、値上げの材、現状のままの材、値下げの材に分かれてくる雰囲気である。

## 9. 小売

木材は一服感が強いが、建材・什器は供給が間に合っていない。スギ KD 柱角は需要緩和で弱含み。欧州産 WW 管柱、RW 集成平角、米マツ平角は不足感が強く価格は強含み。国内挽き米ツガ製品の供給量が少なく 3m×36×45 の上級品は依然品不足。ロシア材製品は流通に勢いが無いものの価格は強い状況が継続。内外産の羽柄材は品薄だが、荷動きは鈍化している。リフォーム工事は増えているが、まとまった量が動かず、在庫の消化に時間がかかっている。

る。役物造作材の引合が弱く羽柄材や構造材の価格を下回る事態になっている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和3年11月29日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	*	*
	製材品	→	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↗	→	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↗
			スギ中丸太(3.65m)2等	↗
			ヒノキ柱材(3m)2等	↗
			ヒノキ中丸太(4m)2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↘
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	→
		アカマツ(KD)16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗